

応募要項

I. 応募資格：名古屋市立大学教員選考規定 第6条(抜粋)

教授は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- (1) 博士の学位を有し、研究上の業績を有する者。
- (2) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者。
- (3) 大学において教授、准教授又は専任の講師の経験のある者。
- (4) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者。

II. 書類作成上の注意

1. 応募書類

- | | |
|------------------------------------|-------|
| (1) 履歴書(別紙様式1) | 1 部 |
| (2) 教育活動・臨床実績・研究助成・特許(別紙様式2-1～2-4) | 1 式 |
| (3) 業績目録(別紙様式3-1～3-7) | 1 式 |
| (4) 業績集計表(別紙様式4-1～4-2) | 1 式 |
| (5) 論文別刷(原著)(10編以内、コピー可) | 各 1 部 |
| (6) 別刷論文の要旨(別紙様式5) | 1 部 |
| (7) 抱負・プロフィール(別紙様式6) | 1 部 |
| (8) 上記(1)～(4)、(6)および(7)を保存した CD | 1 枚 |

2. 記載要領

様式は <http://www.nagoya-cu.ac.jp/med/position/index.html> より Word・Excel のファイルをダウンロードして利用のこと。履歴書およびエクセルファイルの様式を除き、ワードプロセッサなどで作成した印刷文字(原則 12 ポイント)を使用する。履歴書およびエクセルファイルについては、各項目に設定されている文字ポイントを原則使用すること。

(1) 履歴書(別紙様式1)

- 1 氏名(ふりがな)・性別(旧姓があれば旧姓及び改姓年月日を記載)
- 2 顔写真(縦4cm×横3cm)右上添付
- 3 生年月日・満年齢(記載時点の満年齢)
- 4 現住所、勤務先の住所を記載
- 5 電話番号・メールアドレス
- 6 学歴(高等学校以降を記載。「制度」欄については、在学期間年数ではなく、標準修業年限を記載すること。「該当を囲む」欄については、原則、高校・大学は「卒」を囲む。大学院については、修了している場合は「修」、満期退学等で退学している場合は「退」を囲む。)
- 7 学位(修士及び博士、学位記番号、授与大学、授与年月日を記載)
- 8 職歴(所在地は市区町村まで記載。空白期間のある場合は説明を付ける。海外留学または海外出張(3ヶ月以上)は職歴に記載する。「勤務先」欄に海外での受け入れ施設名、「所在地」欄に国名、「職務内容」欄に身分を原語で記載する。)
- 9 資格・免許(国家資格(登録番号も記載)、その他免許等を記載)
- 10 所属学会(「主な所属学会」をあげ、役職名(理事・評議員など)をカッコ付けで記載)

11 賞罰(学会賞などの受賞について記入する。賞の名称、受賞題名及び授与機関名等を記入)

12 研究テーマ

(2)教育活動・臨床実績・研究助成・特許・手術実績一覧(別紙様式2-1~2-5)

- 1 教育実績欄の「内容」は2009年度(平成21年度)以降の実績として学部学生・大学院生などの教育に携わった具体的内容(講義・実習など)を記載する。「時間/年」はコマ数ではなく実時間を目安として記載する(例:90分授業は1.5時間)。他大学での非常勤講師等も含む。
- 2 臨床実績欄は、書式に従い、次の内容を記載する。
 - ・専門医等の資格について取得年月日および認定番号とともに記載する。
 - ・心臓血管外科医としての実績について記載する。応募時点で主術者として手術を行っておりかつ指導医としての実績について、必ず触れること。
 - ・別表の手術症例数について、実績を各欄に記載すること。「執刀医」欄と「指導助手」欄については、括弧書きにて2015年1月から2019年8月までの4年8カ月間の症例の実績を記載すること。「院内死亡率」欄、「術後合併症発症率」欄と「術後平均在院日数」欄については、2015年1月以降の実績を記載すること。なお、「術後合併症発症率」欄については、Clavien-Dindo分類 version 2.0もしくはCommon Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE) version 5.0のGrade 3以上の発症率を記載すること。
 - ・別表の手術症例数について、それぞれの項目に特記事項がある場合には備考欄に番号①から順に番号を振り、対応事項を別表の下の記載箇所に記載すること。また、MICS: minimally invasive cardiac surgeryについても記載すること。なお、書式用紙が足りない場合はページを追加すること。
 - ・別表の手術症例数について、複雑心奇形を含む他の小児心臓手術について、実績がある場合には詳細を別表の下の記載箇所に記載すること。なお、書式用紙が足りない場合はページを追加すること。
- 3 研究助成欄は2009年度(平成21年度)以降の公的機関あるいは民間の研究助成団体からの助成金を経年的に(古いものから順に)記載する(単位万円、間接経費を含む)。日本学術振興会科学研究費補助金は種目名(基盤(B)など)を記載する。代表研究者の場合は当該研究課題全体の金額と本人の受領分を記載する。分担研究者の場合は研究課題名の後に代表研究者名も記載し、当該研究課題全体の金額と本人の受領分を記載する。複数年度にわたる場合はその総額を記載する。本人取得分が明確に出来ない場合は不明と記載する。
- 4 特許欄は、特許名称、発明者、出願人、出願日、出願番号、公開番号、取得した場合は公告・特許番号を記載する。国外の特許を取得した場合は、その国名も記載する。

(3)業績目録(別紙様式3-1~3-7)

1 論文業績

「原著」「著書」「総説」「その他」欄は、欧文・和文に群別した上で、それぞれ経年的に番号を付して記載する。著者名は原文の順に共著者名もすべて記載し、本人の名前に下線を付す。書式用紙が足りない場合は同様の書式でページを追加する。

1) 原著

- ・原著は、欧文論文は、PubMed 収載誌に掲載(印刷中を含む)されたものを記載する。但し、査読審査を経たもののみを記載し、学会等の抄録は原著形式の記述であっても含めない。
- ・記載形式は、PubMed の Summary Format に準拠し、「著者名」(全員)、行をかえて「論文の題名」、さらに行をかえて「掲載誌、発行年(西暦); 巻: 初頁-終頁 .」の順に記載する。
- ・応募者が筆頭著者または責任著者 Corresponding author となっている論文には、論文業績リストの番号に*を付す。

2) 著書

- ・「著者名(全員)」、「論文題名(分担執筆の場合)」、「編集者・監修者名」(3名以上の場合は2名までとし、3名以降は *et al.* とする)、「書名」、「出版社名」、行をかえて、「初頁-終頁」、「発行年(西暦)」の順に記載する。

3) 総説

- ・年報・紀要・記録集などは除く。和文の場合は、医学中央雑誌に掲載されたものだけを記載する。記載方法は原著記載の要領に準ずる。

4) その他

- ・上記の分類に該当しないが重要な業績と思われるもの(PubMed に収録されていない欧文原著、受賞記念論文集、書籍の編者など)について記載する。記載形式は原著・著書の記載要領に準ずる。

(注)印刷中のものは校正刷または受理証明書のコピー(応募時点で採択されているもの)を添付する。

2 学会発表

- ・特別講演・招待講演・教育講演・シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップなど(国内学会は一般演題を除く、国際学会は一般演題も含む)について、経年的に記載する。演者名は原文の順に共同演者も含めて記載し、本人の名前に下線を付す。
- ・「演題名」(シンポジウムなどでは主題名の次に行をかえて「演題名」)、改行して「演者名」さらに改行して「学会名」「発表年(西暦)」「演題種別」を記載する。

3 社会貢献

- ・学外組織の委員や一般向けの講演等、社会貢献活動を記載する。従事内容、従事時期を記載する。

4 大学(学部)運営

- ・在籍している(していた)大学・病院等において、学内・院内の委員等、大学・病院運営への貢献について記載する。
- ・在籍している(していた)機関が大学・病院以外の場合は、所属機関において、その運営にどのように貢献してきたかを記載する。
- ・それぞれ従事内容・従事時期を記載する。

(4) 業績集計表(別紙様式4-1~4-3)

記載例を参照し、以下の事項に留意して記載する。

- 1 「研究主題」は主なものを3項目以内で記載する。
- 2 「主な所属学会」をあげ、役職名(理事・評議員など)をカッコ付けて記載する。
- 3 様式4-1には、原著、著書、総説の年度別の数を、学会発表は合計した数を記入する。原著は、PubMed 掲載の欧文誌のみとし、共著欄の「主」とは筆頭著者または Corresponding author として発表した数、「共」とは第2番目以後の共著者として発表した数を示す。
- 4 様式4-2には、「原著誌名」(PubMed 掲載の欧文誌のみ)をアルファベット順に記載し、論文数を記入する。共著欄の「主」「共」の分類は、様式4-1と同じとする(様式4-2はあらかじめ必要枚数をコピーして用いる)。様式は Excel フォーマットになっているので、論文数等は自動的に集計されます。

(5) 別刷論文の要旨(別紙様式5)

業績の中から別刷を添付した論文について、論文題名、雑誌名、掲載年、200字程度の要約(専門分野外の人にも理解できるよう、研究の独創的な点、意義を中心にしたもの)を邦文で解かりやすく記載する。書式用紙が足りない場合は同様の書式でページを追加する。

(6) 抱負・将来構想(別紙様式6)

以下を、全体で3,000字以内にて記載してください。

- 1 「心臓血管外科分野の将来構想」について。後進育成の視点を含めて記載し、国内どのレベルの心臓血管外科教室を目指すのかを実現性ととも明確に示すこと。
- 2 「小児心臓血管外科医(指導医)の招聘」について。本学心臓血管外科は小児心臓外科領域に多大な実績を残してきており、その伝統を継承し、心臓血管外科医専門医制度に準拠した専門医の育成を考えると、小児心臓血管外科医(指導医)の招聘は喫急の課題と考えており、実績に応じて、教授(診療担当)での採用を検討している。この件に関する具体的な戦略とビジョンを提示すること。
- 3 「目指す研究の方向性」について。

III. 公募期間

2019年(令和元年)11月5日(火)から12月4日(水)まで(消印有効)

IV. 送付先

応募書類は書留郵便とし、表に「心臓血管外科学教授候補者応募書類在中」と朱書きし、送付してください。

宛先: 〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
名古屋市立大学大学院医学研究科長 道川 誠

V. その他

本学は敷地内禁煙を実施しており、教職員には、この方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力いただいております。

また、セミナー等に関する宿泊と交通費は、応募者自身でご負担いただきますことを予めご承知おきのほどお願い致します。